

事務局会議報告

北海道支部・事務局長 青柳 貴文

5月17日、東京にて開催された事務局会議に出席しました。ACEの本・支部事務局間の連携とACE全体の活動を促進することを目的に、2月の総会で年4回(2月総会、5月、8月POEM、11月)の開催が事務局担当者に提案・了承されたことを受け、初めて開催されたものです。時間に余裕がなく、本部事務局の議題に対して支部内での事前意見集約が十分にできなかったことをお詫びします。今回は、支部運営と本・支部間連携の基本となる同意事項および、課題であるACEネットのIP接続を含む運用を主な議題に話し合いました。以下要旨のレポートです。

事務局会議(97年度第2四半期)

日程 1997年5月18日(土)

場所 島津理化器械(株)/亀戸

司会 矢野(本部事務局)

参加者 青柳(北海道支部事務局)・井立(九州支部事務局)

小川(上越支部代表)・後藤(関東支部事務局)

清水(渉外担当)・鈴木(オブザーバー)

村上(東北支部事務局)・脇口(本部事務局)

概要

事務局運営にあたっての趣意書への同意とネットワーク関連の運営について

合意事項

事務局運営にあたっての趣意書について

●今後も事務局会議を行い(5月、8月、11月、2月) ACEの活動の活性化について討議することとする

●機材貸出について

< ACEに寄贈された貸出機材は、各支部に割り当て各支部で運用する >

- 貸出機材は各支部事務局にて管理を行う(機材管理データベース、申請書受付データベースの入力)。年4回事務局会議にて貸出機材の所在地の報告を行う。

- 貸出期間は原則3カ月とし、終了後は利用報告を必ず行う。

- 貸出期間の延長は、支部の判断により認める。ただし、その場合も利用報告は3カ月ごとに提出する。

- 貸出機材の支部への割り当て台数は、各支部のACE年会費の支払い済み会員数の割合に応じて配分する。ただし、設立間もない支部や大きなプロジェクトを実施する支部には、事務局会議で相談のうえ、配分台数を超えて支援する。

●払い下げ機材について

< 各支部に割り当てられた貸出機材は、支部単位で払い下げる事とする >

- 払い下げの手続きは、各支部で討議のうえ、払い下げ予定機が確定された時点で、本部事務局に報告する。本部事務局は各

支部の予定機を取りまとめたうえで、払い下げ価格案を決定し、事務局会議にはかり、決定した払い下げ機材リストを会報に掲載する。

- 払い下げによる収入は、購入者からいったんACE本部事務局に振り込み、本部事務局はその収入の半額を支部活動費として該当支部に配当し、残りの半額は貸出機材の修理費用に充てられる。

●事務局運営費について

< ACE各支部は全国組織として活動するメリットを最大限に活かしながら、支部活動に必要な運営費をACEの収入から各支部へ配分する >

- 年会費はACE本部事務局が会員から直接徴収する。

- 年会費徴収分から、本部事務局経費を差し引いた額を各支部に配分する。配分比率は来年度の予算案で検討する。

- ACE-netのゲートウェイの不具合により膨大な通信費が発生し、今年度の本部事務局予算を圧迫している。そこで、臨時措置として事務局運営費を一旦減額し(2万円を5月より3カ月間1万円) 回収の目処が立ち次第再配分し、今年度の決算の調整にあたる。

- 会報送付時にはかならず会費滞納者には督促を出す。

- 会報、その他のイベントでの収入増を検討する(広告ページを増頁など)。

●活動報告について

< ACEの支部活動を記録してまとめていく事で、会員個人の有益な情報として、また関係団体、企業からの協力を得ることを目的として活動報告を行う >

- 各支部での活動、個人の活動を事務局会議で報告する(貸出機材の利用報告も含む)。

- 報告されたものの発表、公開方法については、各個人、活動グループの意志を尊重しながら、事務局会議で決定する。

ネットワーク関連の運営について

IP接続を初めとした今後のACE-netの運用について、担当を決めて取り組む。

●担当者の決定

- | | |
|-------------------|---------------|
| ・ネットワーク運営担当 | 清水先生(玉川学園) |
| ・テクニカル担当 | 小川先生(上越教育大) |
| ・ACE-Net構築部隊 | 九州支部(チームを結成) |
| ・ACE-Internet構築部隊 | 北海道支部(チームを結成) |
| ・メーリングリスト窓口 | 小川先生 |

実際の内容討議についてはメーリングリストにて行う。

以上は、あくまで事務局会議で同意した内容です。事務局の運営については、会員のみなさんの利益を優先することが前提ですので、それにかんうように改善していくことが必要と思います。ご意見、ご質問のある方は、支部事務局へどんどんぶつけて下さい。

事務局(道新情報開発本部内) 青柳・吉田
aoyagi@hokkaido-np.co.jp TEL.011-210-5506 FAX.011-210-5532

現行ACE-netにアクセスできる方は支部フォルダ内、北海道支部ACEメーリングリストに参加されている方は、そちらでも

結構です(ACE メーリングリストへの参加方法は、
「majordomo@hokkaido-np.co.jp」宛て e-mail の本文に「subscribe
ace-ml」とだけ書いて送信すると、自動登録されます)。

また、上で報告した ACE-net 運用についてのメーリングリス
トに参加したい方もおっしゃって下さい。

なお、マシンの貸出先の大賞となっていっしょの会員の
方々に対して使用状況などに関して近々個別にご連絡を差し上
げる予定です。宜しくお願いします。

「コンピュータミュージック 1 日体験講座」のお知らせ

札幌音楽専門学院 見澤 眞左美
(masami@netfarm.or.jp)

みなさんこんにちは、札幌音楽専門学
院の見澤です。

モバイルラリーにご協力いただいた会
員のみなさん、ありがとうございます
た。

さて、今日はみなさまにお知らせがあ
ります！

毎年、ACE 北海道の協力でおこなって
おります、初心者対象のコンピュータ
ミュージックセミナー「コンピュータ
ミュージック 1 日体験講座 ~ For
Macintosh ~」を今年もまた、下記の要
領にて開催させていただきます。

この機会に皆さんお誘い合わせの上、コ
ンピュータミュージックの魅力を存分に
味わっていただきます。(いずれの
コースもマック・音楽の経験は問いませ
ん。)



さすらいのトランペッター
高校生以上を対象にしていますので、ぜひ、生徒さんにもご案
内ください。よろしくおねがいします。

記

1. 「コンピュータミュージック 1 日体験講座
~ For Macintosh ~」
2. と き：平成 9 年 8 月 1 7 日(日)
 - 1 コース：午前 10:00 ~ 12:00 (一般対象)
 - 2 コース：午後 1:00 ~ 3:00 (一般対象、高校生も可)
 - 3 コース：午後 3:30 ~ 5:00 (高校生対象)
3. と ころ：札幌音楽専門学院 3 F ホール
(札幌市中央区南 2 条西 7 丁目エスター中央ビル)
4. 対 象：高校生以上、一般
5. 参加費：一般 3,000 円、高校生 無料
(ACE 会員の方は参加費が半額となります。)
6. 機 材：Macintosh シリーズ
EZ-VISION 3.0J
ローランドサウンドキャンバスシリーズ
ローランド MIDI キーボード (PC-180)

7. お問い合わせ、お申し込みは
011-261-6131 (札幌音楽専門学院事務局)
または、siminfo@netfarm.or.jp までお問い合わせください。
また、7 月 2 7 日の学校説明会には、マインドドライブの大
久保、三戸が演奏します。興味のある方はご連絡ください。
待ってまーす。

関東支部例会に参加！

北海道支部・事務局長 青柳 貴文

5/17 事務局会議の後、ちょうどその日に予定されていた関東
支部の例会に参加してきました。場所は西新宿のオペラシテ
ィタワーにあるアップル本社。事務局会議を開いた島津理化さん
の本社から地下鉄で 30 分あまり、噂には聞いていましたがオペ
ラシティタワーはちょー立派。周りにあまり高層ビルの無い
なかで、アップル本社のあるフロア(40 何階だったと思う)か
らは素晴らしい眺望です。

東京でしか考えられないロケーションだ... と思いつつセミ
ナールームに入ると、小柄で温厚そうな紳士が迎えて下さいまし
た。そう、その人が、ビジネス・教育市場本部の教育マーケ
ティング課長の三木さんだったのです。いきなりの「北海道の
レター、いつも見えています」というお言葉に、なぜか「すいま
せん」と答えてしまったわたし。北海道支部のアクティブな活
動には注目していただいているようで、今度道内某自治体で
Mac が入るかもという話があるので、来道される機会があれば
みんなで歓迎いたしましょう。三木さん、ぜひいらして下さい。

さて、この日のテーマは「Tango」。とは何ぞや？これは、内
田洋行さんが発売している、「ファイルメーカー」と www を連
携するソフトウェアです。内田洋行営業戦略室の前田さんが自
動車ディーラーの利用例を示しながら、丁寧に説明してくださ
いました。ファイルメーカー Pro で作成したデータベースと Mac
用の www サーバソフト「WebSTAR」を用意すれば、Tango で
容易にホームページとデータベースの連携ができます。ホーム
ページ上からのデータ更新も可能なので、カタログ検索などの
ほか、イントラネットにも応用できます。... と、内田洋行さん
に代わって PR してしまいましたが、マックベースで手軽に構築
できるのが利点かな、と思います。ちなみに価格は 70,000 円で
す。詳しくは <http://butler.uchida.co.jp/> でどうぞ。パンフレットも
必要であればお送りします。

後藤関東支部事務局長より、「支部例会はいつも集まりが悪
くって...」と聞いていたのですが、今回は 20 人近くの会員が参
加していました。特定のソフトについてメーカーの方から具体
的な説明が聞けるのは、首都圏の強みですね。みなさんも出張
などとタイミングが合えば、他支部例会にも参加してみたいは
いかがでしょうか？ 日程はそれぞれですので、各支部事務局にお
問い合わせ下さい。

それと、逆訪問も期待しています！と言ってきましたので、
他支部の会員が北海道に来られるときは、迎撃態勢よろしくお
願います！(デジカメ持っていきませんでした... 写真がなく
て、ごめんなさい)

6 月度研究会のお知らせ

北海道支部・事務局 吉田 哲也

紙幅の都合で短くてすいませんが、6 月度研究会を下記の通り
開催させていただく予定です。千歳の山田先生にはこれから了
承を取る予定です。宜しくお願いします。

記

日時：1997 年 6 月 28 日(土) 午前 10:00 から
内容：千歳デジタルキッズの講習の見学

モバイルプロジェクトの実践について その他諸々

【 NASA/Class of the Future

訪問予告編】道都大学短期大学部 由水 伸

(mailto:yosimizu@netfarm.or.jp)

今年から3年がかりで、私の学校にも待望のネットワーク環境が構築されることになった。私の研究室から日中メールの受信が可能となる日も、もうすぐである。ところが、環境の整備はうれしいのだが、これを生かすように、情報系以外の教職員の教育・運用支援等、役割も背負込んでしまった。

さて、4月に札幌で開催されたNASA/COTF (Class Of The Future) の講演。内容は、学習環境に高度な情報機器環境を導入し、情報教育にとどまらず一般の教育への応用を視野にいたれた教育技術開発を行っているもの・・・らしい。

もしかしたら、ここには私の学校が環境整備に取りかかるちょうど今、その方向性を定める上で何か示唆するものがあるのではないだろうか。私たち(同僚の野口先生も)は早速、学校へ特別研究としてCOTF調査訪問を申請した。一週間後、何とこれが認められてしまった。

というわけで、来月16日から、アメリカ・ウエストバージニア州まで行ってきます。(帰る途中、ENIACの実物を見てくる予定です)

次回、会報発行に間に合えば、この報告をしたいと思います。なお、事前に調査項目のリクエストがあればご連絡ください。

モバイルラリー、ガッツACE チーム優勝！！

青柳 貴文

NCF (ネットワーク・コミュニティー・フォーラム) のメディアワーキンググループのプロジェクトの一環として5月24日(土)に開催された「第1回 Mobile Rally '97」に、「ガッツ！ACE モバイルチーム」が参加しました！

このラリーは、各チームがPHSや携帯電話とノートパソコンを車載し、本部からの指示に従って札幌市内のチェックポイントに向かい、そこで本部から出される課題をクリア、あるいは自分たちオリジナルの課題を自ら設定し、レポートやデジカメの写真をホームページにアップします。審査はインターネットを通して道内各地から行い、審査員以外の「野次馬」たちからの課題要求や、審査員への「このチームに座布団3枚！」といった要求も受け付けます。さらに、すべてのチェックポイントをクリアした後、全チームが本部(札幌市ネットワークプラザ)に集合し、wwwを見ながら大プレゼン大会を行い、その出来映えでまたボーナスポイントや減点をし、最終順位を決定します。

「ガッツ！ACE モバイルチーム」は武田@北星短大、荒島@発寒中、尾崎@北野台中、見澤@札幌音専、青柳@道新の最強チームを結成。自動車は武田先生のランドクルーザー、使用機材は

・リブちゃん、PHS(尾崎)・Macintosh520、携帯(武田)
・Powerbook5300、PHS(荒島)・Quicktake100(武田)
・QV10(荒島)・秘密兵器！(尾崎) < --- こりゃあ、いい！
という構成で、必勝を期して午前8時45分に道新に集合しました。

ちなみに他の参加チームは

・この企画のいいだしっぺ凸版印刷榎谷さんを中心とする「5G」

・NCF運営委員長中山さんがリーダーの「瞬間湯沸かし器(PAROMA)」

・当日即席編成の大日本印刷「DNP」

・プロバイダーの意地をかけてインフォスノーの「SNOW」

・こともあろうに携帯もノートパソコンも使わない「アンチモバイル」

のそうそうたる？強豪ぞろい。優勝候補筆頭の呼び声が高いACEチーム、危うし？

さて、集合写真をデジカメで撮ってホームページにアップするのが、スタート準備オクケーの合図。さっそく本部から「第一チェックポイントは、真駒内公園」との指示。30分後には到着して、オープンスタジアムをバックにトランペットを吹く見澤先生の画像をアップ。「オリンピックの足跡を探せ」との指示に、聖火台の前で写真をパチリ、まずは快調に第一ポイント通過。

間髪入れず、「月寒公園へ」との指示。ここで、せっかくの見澤先生のトランペットの音色、ホームページに載せなければもったいねえべさ！と意見が一致、武田先生の家に寄ってマイクとSoundEditを取ってくることを決心。しばし武田先生宅の地下書斎にて、「あっ、Macintosh「があるうううう！！」なんて一息ついて、さあ出発！！さて、月寒公園へ向かう。もうすぐ到着....というところで、「あっ、マイクわすれたあああ(武田先生)」僕はなにしてたんでしょ。

月寒公園での課題は、「真駒内公園や中島公園にはない、月寒公園にしかないものを紹介せよ」。一同あたりを見回して、「あれだっ！」それは野球場でした。さっそく画像をアップ。そうこうしているうちに、芝刈りをしている宇宙人...じゃない、おじさんに遭遇。「これもアップしちゃえ！」

次の指令は、「川辺を走るメンバーの画像をアップせよ」。ということで、豊平川へ。道中、再び武田邸にて今度はマイクをしっかりとゲット。豊平河畔を激走する武田先生の姿をリブちゃんてアップする傍ら、Powerbookで孤独のトランペッター・見澤先生の演奏を録音！さあ、いよいよマイクの出番だ！！...と思いきや、見澤先生「5300には内蔵マイクが付いてるよ！」がーん。無事収録した音色を編集、ネットワークプラザのNCFサーバーにFTPして、半信半疑ながらレポートのテキストの中にHTMLタグを埋め込んで、アップしました。「さて...お、お、音が鳴ってるうう！」この作戦は大成功、見澤先生の華麗なる演奏は審査員の心をとらえ、なんと座布団10枚の大ポイントゲッターとなりました。

そろそろお昼近く。本部からの指示は「昼御飯を食べて、写真を送って」。僕は相談の末、お好み焼きの風月へ向かいました。お店に入るなり「ご注文はなんですか」「電源ありますかああ！」幸いテーブルのすぐ横にコンセントを発見、バッテリーもたっぷりおなか一杯にさせてもらいました。

お昼ご飯を食べながらも、じっとしている私たちではありません。ここで、尾崎先生の秘密兵器が登場！それはなんと、「デジカメ直結プリクラ」。ティッシュケースくらいの大きさのプリンターから、デジカメで撮った写真が次々とシールのプリクラとしてはきだされる、すぐれものです。すかさず武田先生、風月のお姉さんとのツーショットをプリクラにして、証拠写真をアップ！直後、ネットワークプラザで缶詰め状態の本部から「技術と企画はすばらしいが、軟禁状態のわれわれの神経を逆撫でするような行動に賛否両論」との感想がもれ、早々に風月を後にして中島公園へ。

ここでの課題は、「公園を仲良くデートするカップルと一緒に写真を撮ってください」。さあ、突撃だ！二手に分かれ、武田先

生と青柳は結婚式に行く途中のカップルを発見！「いま、インターネットラリーをモバイルでやって、課題がでて、こう



やって写真撮ったのがホームページになって...」「どうでもいいけど、時間無いのではやく撮って下さい」ありがとう！まずは1枚ゲット。バックアップのため、もう一組に声を掛ける。同じく若いカップルでしたが、関西からのお忍び旅行？のようで、彼女のほうに警戒されてしまって×！あきらめて、荒島先生チームを追う。さーすが荒島先生、すでに犬連れの夫婦とばかりスリーショットを決めて、ACEのメーリング・リストに「ガッツACEチームに応援頼む！」とメールを送っていました。

さて、いよいよ最終チェックポイントはすすきの。「あなたにとってのすすきのを、3部作で表現して下さい」という指令に、極めて教育的な視点から、現代の病める心をテーマにした取材を展開、3枚の写真をアップし終わったところで、まだ4時前。集合リミットの5時には、時間がある...各チームには、途中で賞品となる「おみやげ」を買ってくるのが科されています。ACEチームは、殺風景なネットワークプラザに息を吹き込む観葉植物を、中島公園の園芸市で購入。どのチームが当たっても、召し上げてプラザに寄贈しようという作戦です。で、その観葉植物の鉢用の受け皿を購入。4時過ぎには悠々と一番乗りでプラザ入りしました。

午後5時、なんとかすべてのチームが集合し、いよいよプレゼン大会が始まりました。ここまでの審査員による基本点では、ACEチームは40ポイントで同率1位。プレゼンは一番目となり、自然と力が入ります...武田、荒島、青柳による「長すぎる。」と評されたプレゼン、全チームが終了後、審査委員長による各チームのボーナス点と減点の審査に入りました。ACEチームは、見澤先生のペットの音色と、寂しかった本部に一番乗りで帰ってきて彼らを励ましたことが評価され、ボーナス点をゲット。逆に減点は、他チームがお互いに遭遇、相手の写真をアップしまくって潰しあったのに対して（そうされると減点対象になる）、どこにも会わずに減点ナシ！総合47ポイントで、見事に優勝！

歓喜のなか、1等賞品としてハンドクリーナーが授与されました。プラザに寄贈しようと思いましたが、既にあるとのことで、とりあえず事務局に置いてあります。余談ですが、数ある賞品のなかで、尾崎先生持参の年代物のUコンセットと実験グッズは、ひときわ光っていました。

今回のモバイルラリーは、モバイルコンピューティングの実験の実験として、クローズドななかで自分たちが楽しんじゃえ、ということでやってみた、というのですが、一方で携帯や

PHSを使ったインターネットの利用法を検証、今後のイベントやビジネス展開の可能性を探る、というまじめな趣旨も、もちろんあります。この結果をもとに次回以降はオープンにして一般参加も募っていきます。いずれにしてもACEは今後も参加し続けます。連覇へ向けて、がんばろう！

「ちとせデジタルキッズ」開催！

千歳青葉中学校 山田 浩人
(yamada@netfarm.or.jp)

ちとせAMEと(株)経営情報センターが主催し、千歳マルチメディア情報センター後援の小中学生向けパソコン、インターネット講座「ちとせデジタルキッズ」の第1回目が、小中学生15名が参加して始まりました。

第1回目の5月の第4土曜日となった24日は、(株)経営情報センターの飯豊部長代理が講師をつとめ、子どもたちは、ネットサーフィン体験しました。初めての開催で、子どもたちの中には、やや緊張も見られましたが、電話代を気にせずインターネットができるとあって、いろいろなページにアクセスしていました。

そんな中で、一番の人気は何といっても、たまごっちのページでした。さっそく、プリントアウトする子もいました。

次回以降の予定は下記の通りです。毎月、第四土曜日です。12月は第2土曜日を予定。



保護者の方も一緒に参加

開催予定日	内 容
6月28日	ネットサーフィン、簡単なホームページ作りに挑戦
7月26日	デジタル空港探検隊（デジタルカメラに挑戦）
8月23日	パソコンでプリクラ！？
9月27日	電子メールに挑戦！写真の加工に挑戦！お絵かきに挑戦！
10月25日	本格的にホームページを作っちゃおうパート1。
11月22日	本格的にホームページを作っちゃおうパート2。
12月13日	バーチャル雪祭りに挑戦！
1月24日	バーチャル雪祭りに挑戦2！
2月28日	電子メールに挑戦

デジタル学校新聞プロジェクト(2)

「広がるデジタル学校新聞の輪」

札幌星園高校 高瀬敏樹
(takase@netfarm.or.jp)

やっとAcrobat 3.0Jが発売になりました。このソフトの凄いところは、どんなソフトウェアで作成したドキュメントでも、WindowsまたはMacintoshで、そのままの内容、レイアウトで再現できるところにあります。学校新聞を、ワープロを使って編集している学校は多いと思いますが、ハサミと糊も必需品と言った所でしょうか。どうせやるなら、一歩前へ進んで、写真や図表も含めてパソコン上で編集すると、新たな世界が拓かれると思います。なにせ、紙面を全てデジタル化すると、プリンタへの出力と同じ要領でPDF(Portable Document Format)ファイルが作成できるのです。後は、ホームページで公開しようが、電子メールで配信しようが、新たな手間は必要なくなるのです。日本語版は発売されたばかりなので、色々なトラブルに見舞われます。技術的な問題はPDFのメーリングリスト(PDFml-J <http://www.mimj.co.jp/pdfmlindex.html>)が、とても役に立ちます。ところで、第41回全道高等学校新聞研究大会が、10月7日(火)から9日(木)の3日間、札幌で開かれます。当番校は札幌開成高校で、会場はかでの2・7です。8日(水)の11:30~17:30には分科会が開かれ、今年はDTP新聞(デジタル新聞)の分科会が設定されました。石狩支部の生徒達は、全道各地から参加した高校生と共に、デジタル学校新聞の実技講習会を行いたいと考えています。大会期間中の速報もDTPで行う予定です。一方、高文連新聞部石狩支部では、ようやくデジタルカメラ2台とレーザープリンタ1台が整備されたに過ぎません。機材、人材の面でACEにもご協力をお願いすることがあると思いますので、よろしくお願いします。

先日、北海道工業高校の新聞局のみなさんが訪ねてくれました。本校の新聞局長成田君の説明を、4名の新聞局員と顧問の続先生が、熱心に聞いて下さいました。既にPageMakerを導入しているので、早速DTPによる学校新聞を発行するそうです。また、網走南ヶ丘高校の元紺谷先生からは、次号からPageMakerを使って発行しますとのお手紙をいただきました。生徒同士でダイレクトに、デジタル学校新聞の交流が持てる日もそう遠くはないと思います。



新たな学校新聞の形をめざして

モバイル実験小説「BUG ~ バグ」

(服部さんのとこの会社じゃないです)

森田 素生

ある夏の日、私は会社にある自分のパソコンのディスプレイを眺めていた。一見私は仕事をしているように見えただろう。しかし、そうでは無かった。大手ソフトハウスに勤めるプログラマとしての私の地位を守るために不可欠な、完全無欠を求められるプログラムを考えていたのだ。決してバグなどあってはならない。なにしろ、これに従って私は人を殺すのだから。

それは熱帯夜が私にもたらした気まぐれだったのであろう。あの自己中心的なものの考え方をする馬鹿で不細工な性悪女がそのときだけは天使に見えてしまったのだから。

案の定その女は結婚の二文字を持ち出してきた。プログラマは金を使う暇がないという情報をどこからか仕入れて来たのである。それが寿命を縮めることになるとも知らずに。

私はもう30になり、プログラマとして決して若いほうではない。そろそろ体がついていなくなってきた。今管理職にならなければ私は燃え尽きてしまうだろう。悲しいかな、先が見え始めたその時、突然人事部長からお呼びが掛かった。ウチの娘と結婚しないかというさそいだった。写真を見るとなかなかの美人だし、人事部長は役員候補の最右翼だ、将来も明るい。私は二つ返事でその申し出を受けた。

そういう訳であの障害物を取り除く必要ができたわけだ。もはや交渉の余地はない。そんなことをすれば死ぬまで金を絞り取られるのがオチだろう。それに、一生怯えて暮らすのは好みではない。なんとしても完全犯罪を実行する必要がある。私は計画を練りに練り、それを実行に移した。

あの女が住んでいるところは、最近流行りのインターネットネットマンション(1)で、各部屋にNTT東日本(2)のISDN回線(3)と、最新鋭マルチメディアパソコンが備えられている。マルチAVリモコンにもなる赤外線インターフェイス(4)を標準装備した、人気のモデルだ。

そして、リモコン操作が可能なエアコンにミニコンボ。最後に、私が苦勞して改造したリモコン扇風機。これらをフルに活用して、あのぶくぶくと太って心臓がイカれかけている醜い豚を屠殺場送りにしてやる。もちろん私は完璧なアリバイを手にしてだ。

(前編ここまで)

----- (森田君本人の解説付き) -----

設定：一応2001年・首都圏ということになってます。この年代の意味は政令指定都市クラスの大都市の家庭まで光ファイバーケーブルが入るのが2005年という事になっているので、そのちょっと手前という事で。

(1)インターネットマンション

読んで字のごとく、パソコンが部屋に備え付けてあってそのままインターネットに接続できるようになっているマンション。場所によっては高速な専用線をつないであります。北九州に第一号が建設開始、との記事を読んで書いてみたが現実とは早いもの。すでに学生向けのインターネット寮までできたとか。この業界の素早さには虚構の世界が負けてしまいます。

(2)NTT東日本

年代設定より。(98年分割予定)地域系二社と長距離系一社になる予定です。実際にこのような名前になるかは不明。

(3) I S D N 回線

簡単にいうと高品位かつ高速なデジタル回線網。街角のグレーの公衆電話はそうだし、最近は個人で引くのが大流行しています。この時代では常識。

(4) マルチ A V リモコンになる赤外線インターフェイス

某 F 社独自規格で斜陽のマルチメディアパソコンといえる T シリーズの事実上最終モデルに搭載されたのを見て驚き、早速登場させてみました。なぜこんな便利なものを他のモデルに搭載しない！と怒っています。リモコンのついている家電をパソコンからコントロールできるようになって、おもしろいのにな...

バーチャル雪まつり '98 始動！

発案中学校 荒島 晋

バーチャル雪まつり '98 ((株) 経営情報センター全面支援、多謝！) がいよいよ始動しました。今回のタイトルロゴは黒柳先生@啓明中の作が有力です。本年度は TBS-News23 やら NHK-おはよう日本やら多くのマスコミの喧騒の嵐に遭いながらも過去最多の参加校を誇りました。来年はさらにパワーアップを目指してがんばりましょう！現在参加校ならびに参加者募集中です！みなさんどしどし参加しましょう！今年もよろしくね飯豊さん ^ ^ ；

編集後記

ACE 北海道レター史上初の試みとしてモバイル高校生森田君の近未来小説「BUG」を掲載します。

直接関係ないんですが、処女作「C の福音」がいきなり話題となった新進ミステリ作家、楡 周平の第二作「クーデター」(宝島社刊)にとっても面白い場面が出てきます。詳細はネタバレになるのでおときますが、主人公のカメラマンが自分の撮影した写真を確認するためにインターネットを使って新聞社の PhotoCD データベースにアクセスするのですが、急ぐ先がなんと近くの中学校。新潟の山間部の中学校に都合良く PowerMac があるというのも安直で何か笑ってしまいますが、ACE に携わっているとあながち絵空事でもないかなと思います。(吉田)

「この企画書、書いてて思うんだけど、通れば一月後はアメリカにいるんだね」

「今、こんな淡々としてやってるけど、何かすごいことしてるんじゃないだろうか」

「うーん、そうかもしれない・・・」かくして、一週間後、COTF 行きは決まった。

COTF の講演後、評価はまちまちであった。技術的な背景を見ると、我々でもできるぞという気持ちはある。が、自分はやっているだろうか。構想ばかり沢山あっても、忙しさの中、放っておいたのでは意味が無い。

COTF は教育現場にいつかはやってくる日を見せてくれるのかもしれない。(由水)

NCF 会員で道都大学短期大学部の野口といいます。ACE 会員ではないのですが編集会議に突然顔をだしまして、なんと編集後記を書いているではありませんか。なんなんでしょう。実は、来月の 16 日からアメリカのジェスウイト大学に行くことになりました。ご存じの方も多いと思いますが、例の NASA/COTF

の実験施設がここに 있습니다。で、現地とのテレビ会議の算段等について打ち合わせをしていたのであります。視察報告を帰国後の NEWSLETTER に書いてくれ、な～んて言われてませんがまたいつかお会いしましょう。(野口)

荒島@札幌発寒中です。先週土曜の第 1 回モバイルラリーではまんまと 1 等賞をいただきました。まさに「ACE 北海道ここにあり!!!」というのをアピールしてきたわけです。なんといっても音を送ることができたのが勝因でしょう。これもひとえに「ACE わいわい広場」で鍛えた WebBoard の技術です。普段 WebBoard をあまり使っていない方は HTML のタグが利くなんて気付かなかったでしょうが！それにもまして、見澤先生のトランペット持ち込みの用意周到さと本業を発揮した音のデジタル加工！、そして PowerBook の内蔵マイクのお陰です。Apple さん本当にありがとう。尾崎先生のリブレット & 32kPHS のモバイルグッツよありがとう！武田先生、ランクルの巧みな運転ご苦労様。青柳さん、技術屋ながらさすが道新！名コメントありがとう！...ウン、私はいったい何をしていたんでしょう？(荒島)

道東アジト開設のお知らせ

初心者向けパソコンスクール「ホームコンじゅく」では 6/16 釧路市に待望の新アジトを開設します。

道東の活動拠点として、色々活用して頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。

ホームコンじゅく釧路駅教室

場所:釧路市新富町 6-20 じゅく総合案内 011-218-5700

(塩谷)

行ってきました、やってきました「モバイルラリー」。これ、まじで楽しいです。なんといっても、参加してるのが楽しい。いちどやったら、病みつきです。でも、後から聞いたら、ホームページを見て野次馬も楽しかったらしい。と、いうことは、関わってるみんなが面白い。これ最高。またやりましょう。ACE で、それ以外で、なんでもいいから参加しましょう。思うに、モバイルって、インターネットに魅力を感じている人の欲求をかなりの部分で満たしているのです。いつでも、どこでも、誰とでもネットワークキング。あとは、通信料金だけ。(青柳)

こんにちは。見澤@札幌音楽専門学院です。

モバイルラリーも ACE チームの勝利で幕を閉じ、ほんと一安心。これから、6 月研究会、マルチメディアキャンプ、POEM というイベントが目白押しです！たくさんの皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

8 月はうちの学院でお会いしましょう！(見澤)

ネットワーク社会は明るいのだろうか？われわれは本当に正しい道を進んでいるのだろうか？その答えは、われわれ自信が作り出すものなのである。社会を見つめ、世界の人間を見つめて、われわれの進むべき道を見極めるのだ。そして、マルチメディア紙芝居の旅は続く・・・、ヤギ兵衛は、新しい葉を広げようとしているネコ柳の木のテッペンを見上げて、額の汗をぬぐった。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997 年 5 月 26 日発行